

欠損駆動思考の構造論

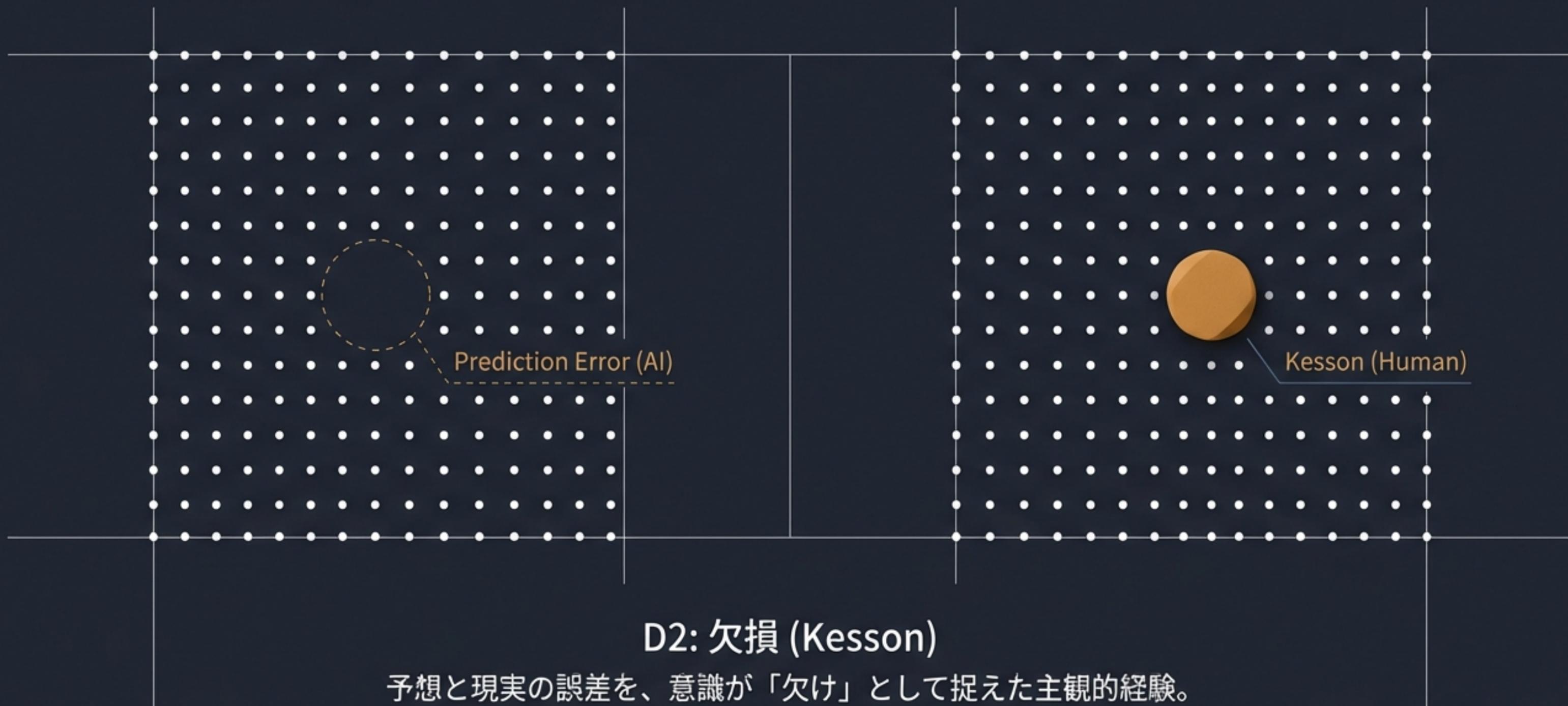
意識における3つの構成的視点

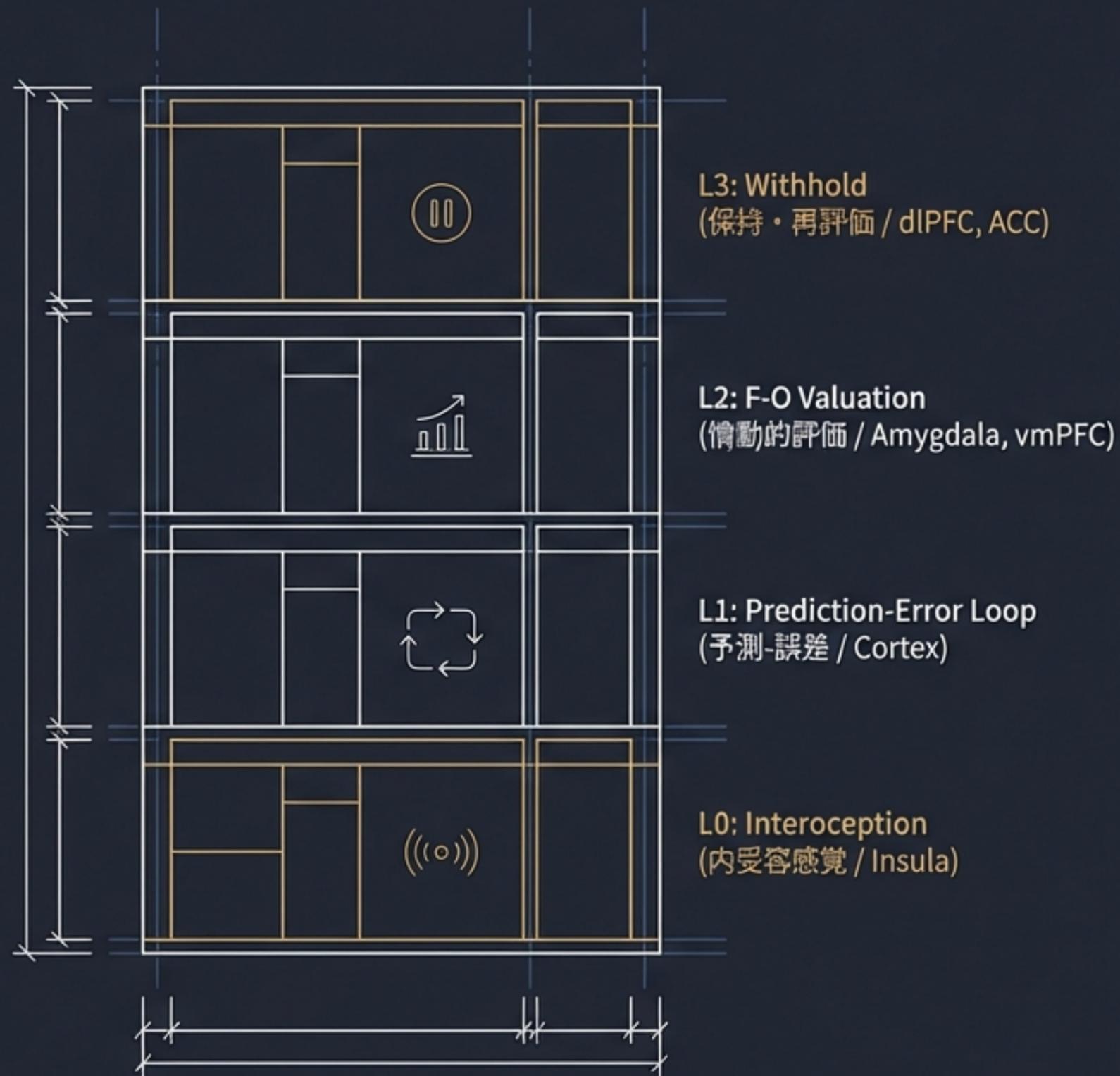


DIN Next LT Pro
The Architecture of the Mind

コア定義：誤差と欠損の断絶

AIは予測誤差を計算するが、人間は予測誤差を経験する。

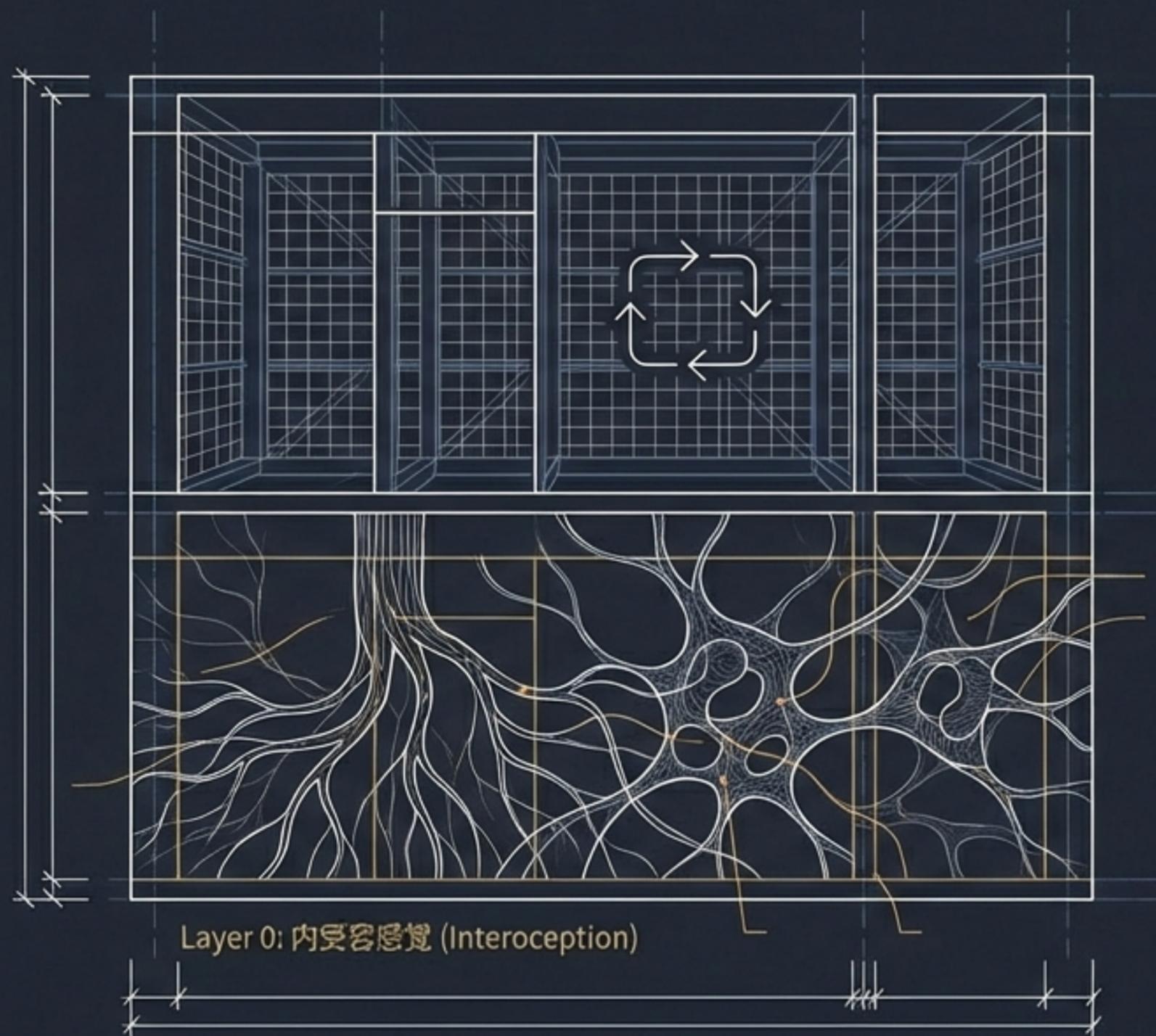




視点1：垂直的階層構造（M1）

意識は平面的ではなく、身体的基盤（L0）から
メタ認知的保持（L3）への積み上げとして存在する。

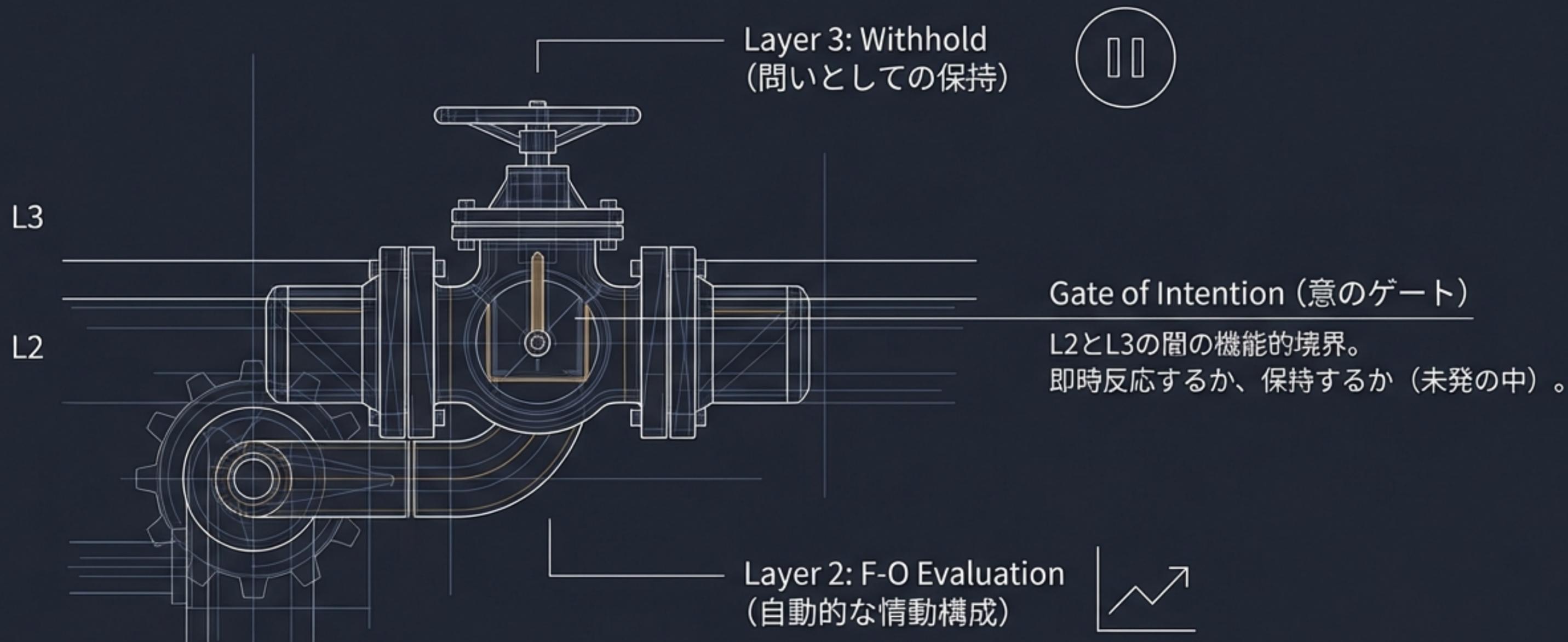
基盤層：身体が感じなければ、欠損は生じない



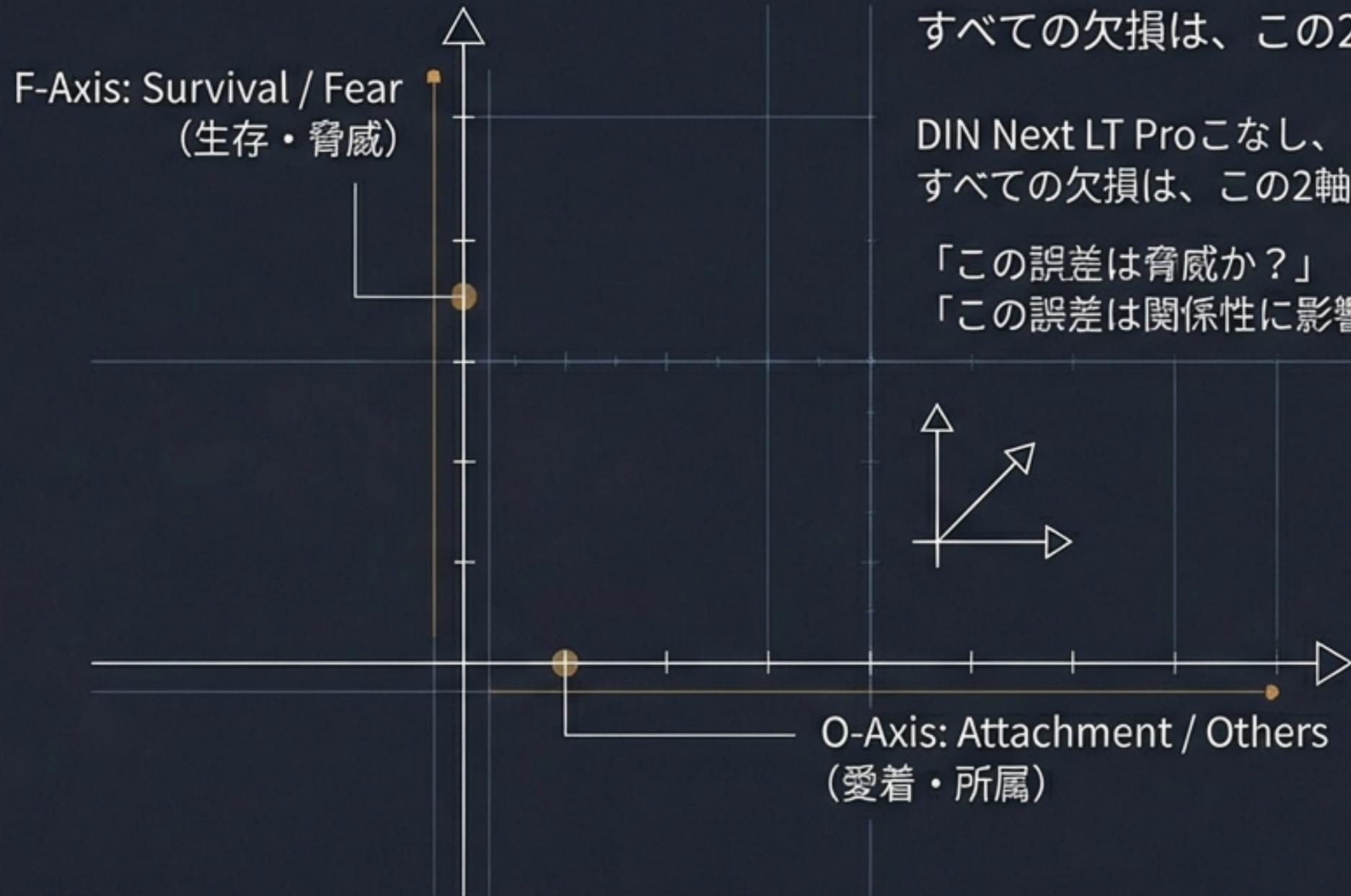
E07: Layer 0が作動しなければ、予測誤差は「計算」されても「経験」されない。

AIが欠損を経験しないのは、この身体的基盤（L0）を欠いているためである。

上層構造：意のゲート



視点2：空間的座標構造 (F-O Coordinates)



すべての欠損は、この2軸上で直ちに評価される。

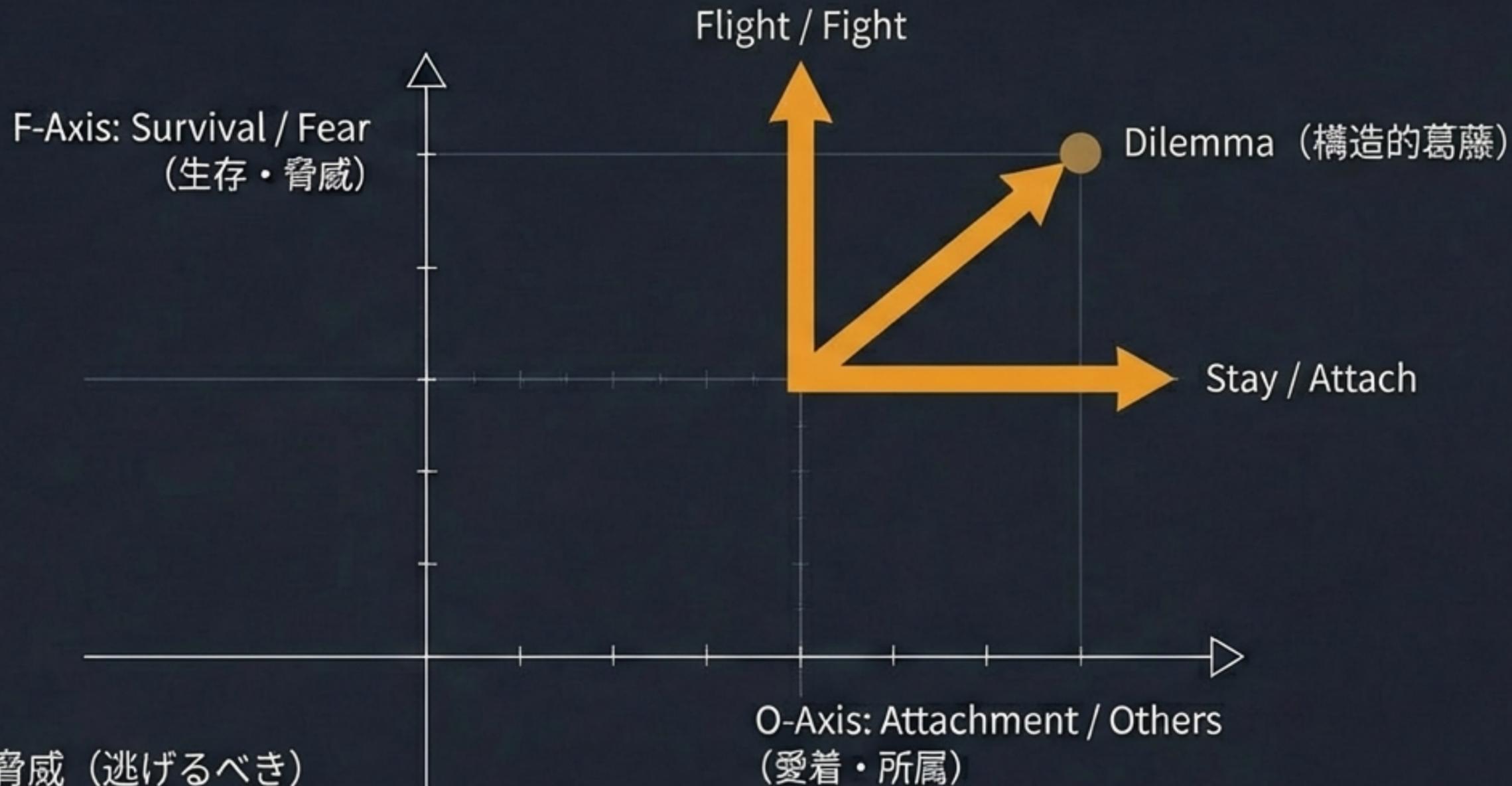
DIN Next LT Proこなし、「Noto Sans JP」
すべての欠損は、この2軸上で直ちに評価される。

「この誤差は脅威か？」 (F軸)

「この誤差は関係性に影響するか？」 (O軸)



葛藤空間の力学



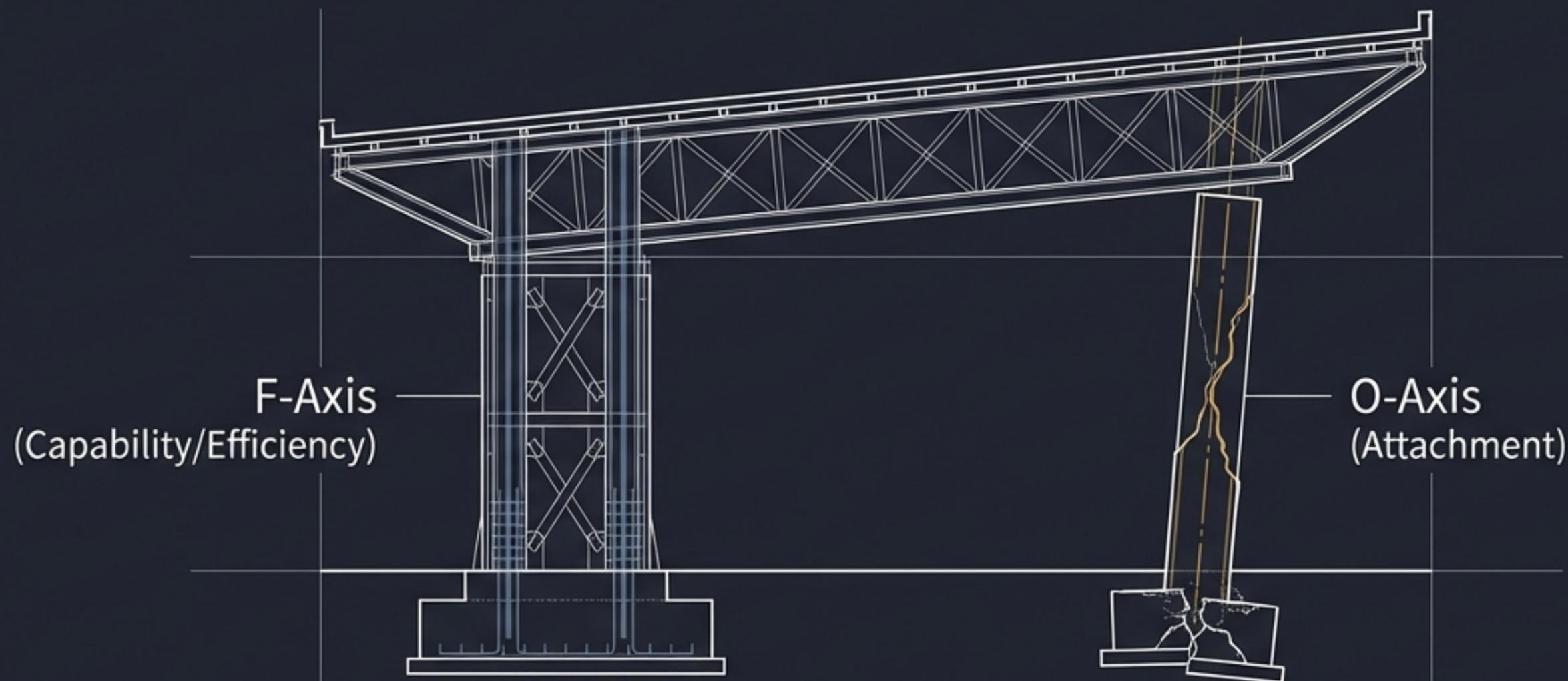
F軸：高脅威（逃げるべき）

O軸：高愛着（留まるべき）

同一の欠損が相反するベクトルとして評価される時、構造的な「引き裂かれる」体験が生じる。

構造的病理：「別の絶望」

F軸過剰適応 (F-axis Over-adaptation)



- O軸（安心）の欠乏を、F軸（有能さ）の過剰発達で代償する構造。
- F軸が機能不全に陥った時、隠蔽されていた欠乏が露呈する。



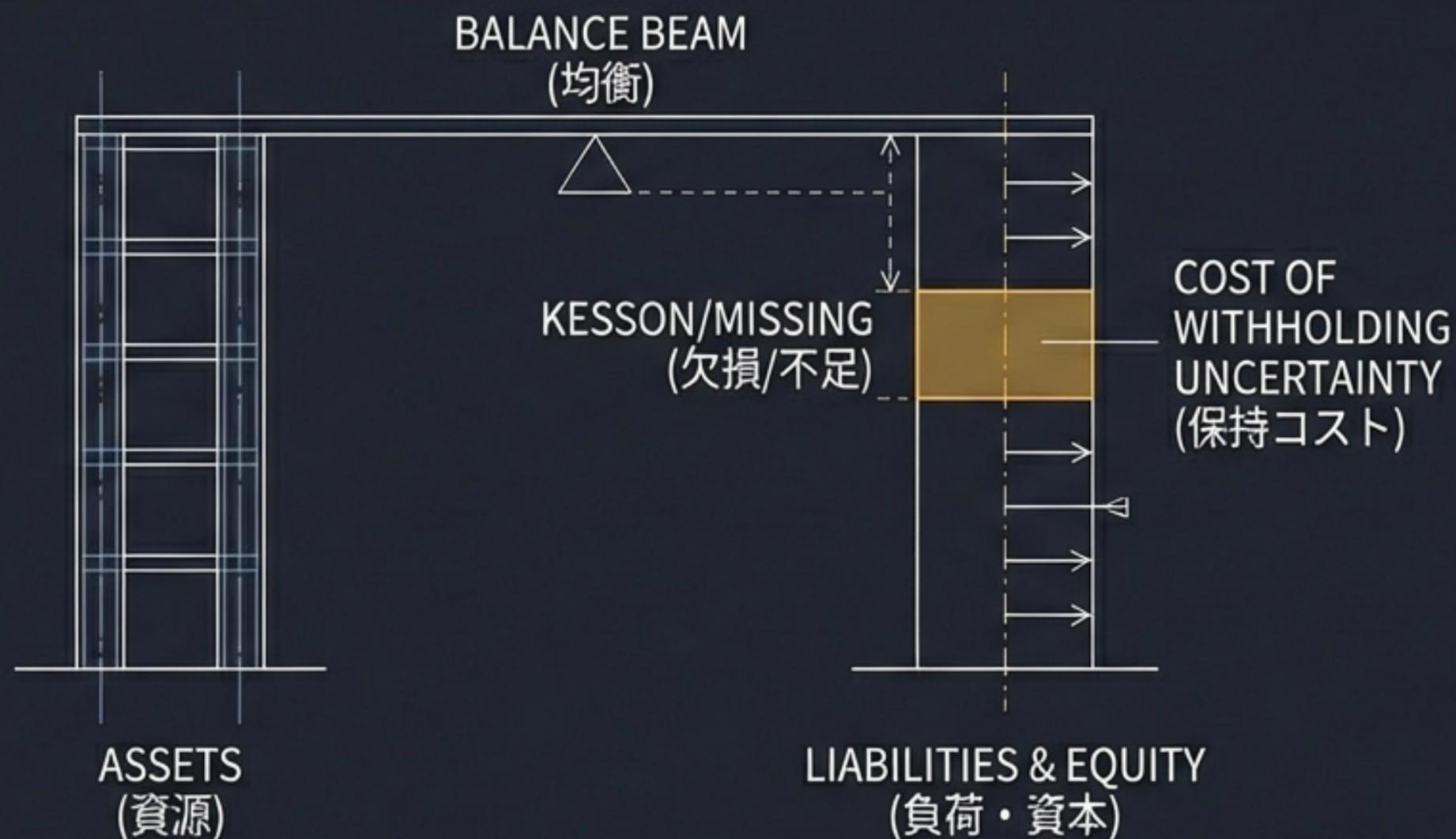
Architectural Zen

構造的病理
2020.05.18

視点3：資源的構造 (BSPL Model)

意識の資源構造への補助線。

「わからない」を保持する (Withhold) には、コストがかかる。



二重PL構造：短期効率と長期意味

PL-F (Survival PL)

- Timeframe: 短期 (秒～分)
- Focus: 生存・効率・解決
- Withhold = 損失 (Loss)



PL-O (Meaning PL)

- Timeframe: 長期 (日～年)
- Focus: 愛着・信頼・意味
- Withhold = 投資 (Investment)



短期的には損失に見えるWithholdが、PL-O上では関係性への投資として機能する。



Architectural Zen

MISOGI
SOCIETY

信頼の純資産仮説 (H17)

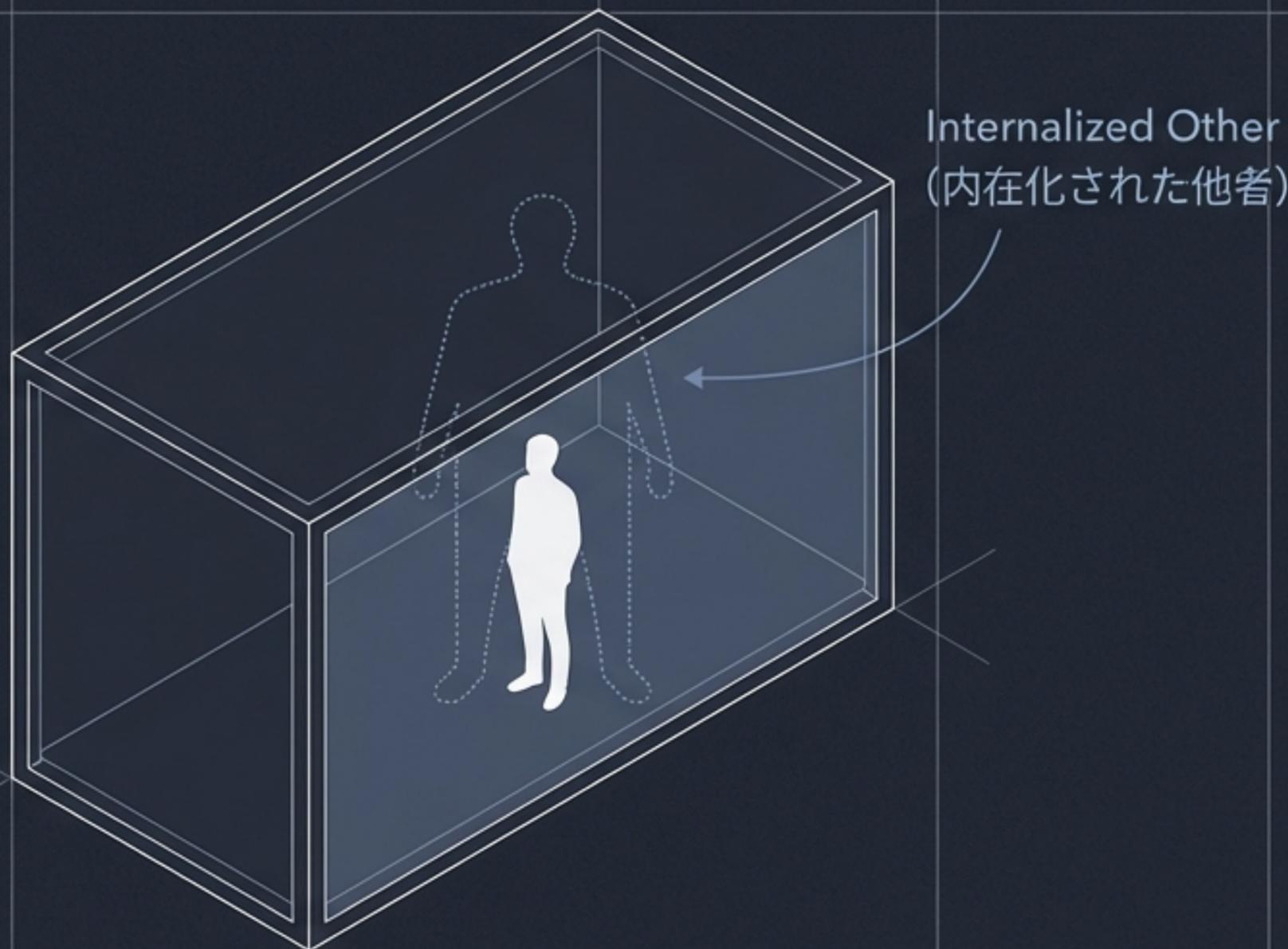


なぜ待てるのか？

この純資産（安心の備蓄）が、短期的なPL-Fの赤字（不安）を補填する。

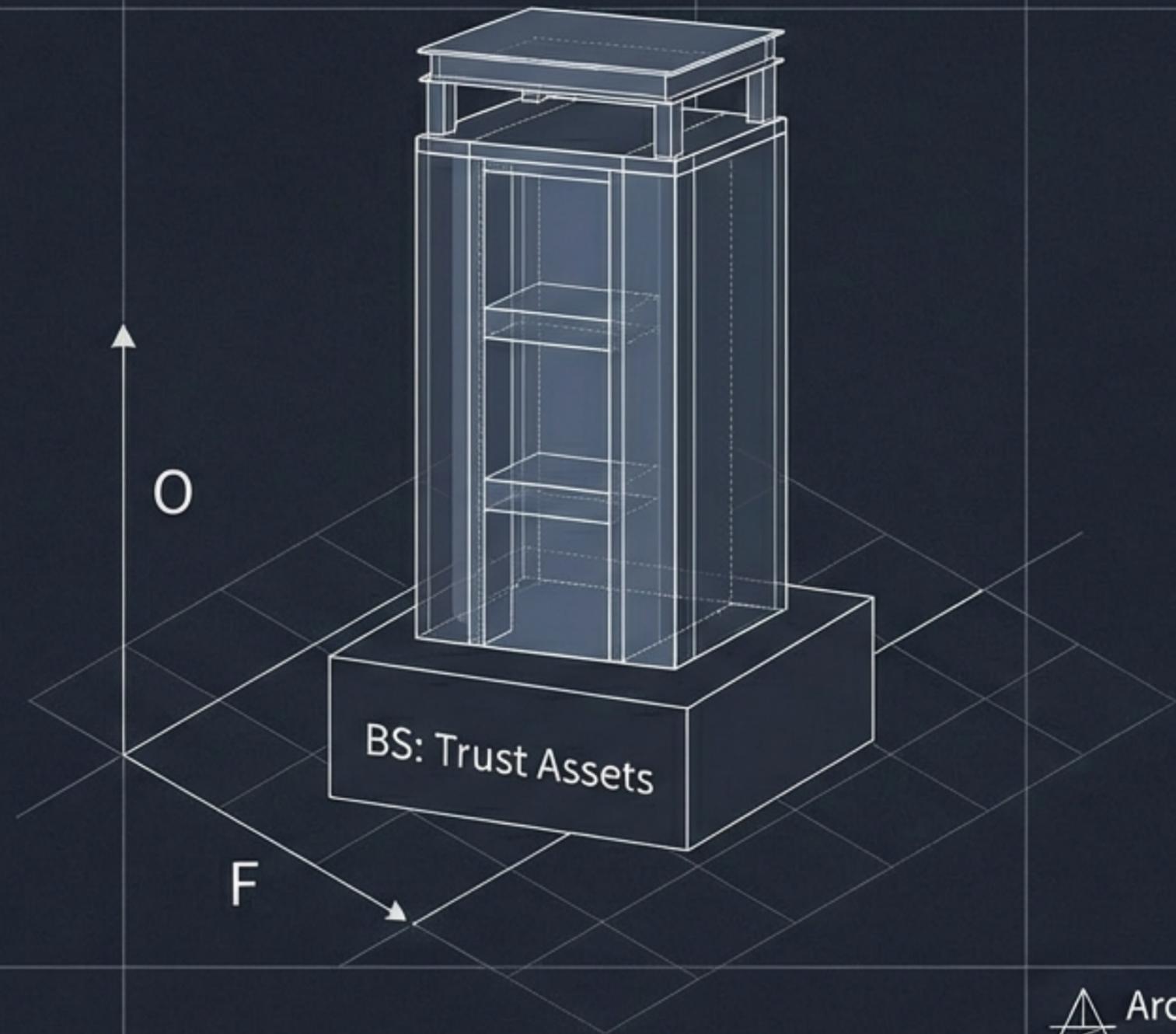
構造の外部性：ひとりでは待てない

- Withholdの成立条件は、個人の意志力ではなく「場」である。
- Internalized Other
(内在化された他者)
- 物理的に他者がいなくても、記憶の中の関係がContainerとして機能する。



統合的アーキテクチャ

- F軸のContainment（生理的安全）のもとで、O軸の α 変換（問いとしての保持）が作動する。
- 出力が再入力される循環構造。



構造の機能：創造の「縁」へ

- Withholdによって保持された欠損は、即時解決されず「準安定状態」に留まる。
- Stage 3: 縁 (Relation/Edge)
- 創造は、際（境界）に留まることを経て生じる。



問いを保持する構造へ

予測誤差をすぐに棄却せず、問いとして保持する。

それは才能ではなく、設計可能な構造である。

Design not for the answer,
but for the capacity to wait.

